



東京農大などを運営する学校法人東京農業大学は、7月16日に開催された理事会において、東京農大の学長兼新理事長に、江口文陽(ふみお)を選任した。江口学長は、学長就任2年目にして理事長を兼務することとなった。

江口学長兼理事長は、就任挨拶の中で、東京情報大学と東京農大併設の教育(研究)環境の整備を推進すると述べた。他の役員は表の通り。

学校法人東京農業大学 新理事長就任



10年ぶり箱根復活 予選会11位

陸上競技部 長距離ブロック男子

箱根駅伝2024予選会: 総合成績・個人成績

順位	氏名(学科学年)	タイム
総合11位	東京農業大学	総合タイム 10:39:05
9	前田和摩(食料環境経済学科1年)	01:01:42
30	並木寧音(国際農業開発学科4年)	01:02:35
61	原田洋輔(農芸化学科2年)	01:03:32
67	高槻芳照(食料環境経済学科4年)	01:03:36
155	深田岡航(食料環境経済学科3年)	01:04:26
166	深堀優(国際バイオビジネス学科2年)	01:04:32
175	吉村颯斗(醸造科学科4年)	01:04:35
183	田中莉生(生産環境工学科4年)	01:04:40
189	実中智哉(国際バイオビジネス学科3年)	01:04:42
195	長谷部慎(食料環境経済学科4年)	01:04:45
227	高山匠也(国際バイオビジネス学科3年)	01:05:07
304	松本虎太郎(国際バイオビジネス学科4年)	01:05:54

第1000回東京箱根間往復大学駅伝競走予選会が10月14日、東京都立川市で行われ、陸上競技部長距離ブロック男子が、2014年の第90回大会以来の本大会出場を決めた。▼4面いざ!箱根路

1000回記念の箱根駅伝予選会にエントリーしたのは近畿や東海地区などの11チームを含む12人がハーフマラソン(21.0975キロ)を走り、上位10人の合計タイムで競った。

東京農大は、総合成績11位に入り、10年ぶり70回目となる念願の箱根出場を決めた。

15キロ付近で一気にスピードをあげたのは、前田和摩さん(経済1年)だ。日本人トップの1時間1分42秒(個人9位)でゴールした。前田さんは「今の4年生は監督が代わって、チーム立ち上げの最初の代。すごく苦労されていた。4年生に箱根を走ってほしい。何としても予選会を通過して、本選はこのチームで勝負したいと思っています」と振り返り、小指監督は「ここで学生たちの泣く姿を何年も見てきたので、結果が出て良かった」と安堵の表情を見せた。

【住友富美】



2023年(令和5年)12月号 第099号

東京農業大学 TOKYO UNIVERSITY OF AGRICULTURE 1891

「総合農学」を推進する

世田谷キャンパス 大学本部
大学院・応用生物科学部
生命科学部・地域環境科学部
国際食料情報学部
厚木キャンパス
大学院・農学部
北海道オホーツクキャンパス
大学院・生物産業学部

連載 学長の愛したフィールドの旅 奥多摩演習林篇



演習林内で安全な実習を行うための説明を聞く学生

都心からもっとも近い山岳公園に広がる生物多様性の保全基地

東京農大奥多摩演習林は、首都東京西部に位置し、都心から最も近い山岳公園である秩父多摩甲斐国立公園、奥多摩町の一部なのだ。奥多摩町の森林面積率、すなわち町に占める林野率は90%を超えている。高層ビルや地下鉄道網が張り巡らされた世界都市東京にあるとは思えない。

森林が構成されることで生物多様性の保全、木材や特産林産物(きのこや山菜、木の実など)の資源供給をはじめとして、山岳斜面崩壊の防止、洪水の防止、水資源の確保など人間生活、農業と産業の活動、さらには河川や海洋の漁業資源など多くのことへ恩恵を与える機能を齎している。演習林は、多摩川流域にある重要な、

奥多摩の自然から深まる学び

私が演習林に最初に訪れたのは、1988年のことである。林学科(現森林総合科学科)の林産学実習で青梅線奥多摩駅から演習林中央を指して竹で編んだ野冊を肩から掛けて植物を形態学的分類が可能な大きさに採取し、標本作製用に野冊内の新聞紙の間に挟んで急な坂道を降り降りして歩き回った。まるで昨日の出来事のようなものである。

現在の奥多摩演習林の施設は、奥多摩町水川から雲取山へ向かう主尾根の登山道沿いに面し、JR奥多摩駅から徒歩90分程の場所にある。研修センターは、院生・学生・教職員および他大学等の研究者の研究と教育活動の拠点にもなっている。さらに日本全国各地から集めた銘木を適材適所に利用して日本古来の伝統的技

法により建築された資料館は、「総合農学」の学びの基地と言えよう。林地は、スギ、ヒノキ、カラマツなどの植林地とミズナラ、クリ、シラカバ、ウラジロカシなどからなる天然性の森林で構成される。

森林のしくみや動植物との関係、森林の育成方法、森林の環境的機能の仕組み、林道の設計、林業機械についての実験実習および研究活動を展開する演習林は実学主義を体得する聖地であるのだ。演習林で伐採された木材は、世田谷キャンパスの大階段や什器などとして大学施設の環境づくりに役立っている。こうした持続可能な森林資源利用が更なる学部やキャンパス間の交流に繋がるのである。

【文・江口文陽(学長) 写真・阿部雄介】

4月・7月・12月発行
編集 東京農業大学企画広報室
〒156-8502
東京都世田谷区桜丘 1-1-1
https://www.nodai.ac.jp/



HEADLINE

収穫祭開催/ホームカミングデー開催/きのこ図鑑
農大貢献賞・ベストティーチャー賞・ベストレクチャー賞決定/
農大貢献賞山崎晃司教授に聞く/ニュース&トピックス
農友会の活動(陸上競技部長距離ブロック男子・全学応援団・
ホンダ小山直城選手・北海道オホーツク硬式野球部・
世田谷硬式野球部・陸上競技部長距離ブロック女子)……

4 3 2



賑わう収穫祭

コロナ制限無く開催、キャンパスに活気

立年谷パス
創132世
世カ

農の新時代

コロナ禍を経て、制限のない開催は実に4年ぶりとなった創立132年東京農大収穫祭が11月3日～5日にかけて開催された。

今年度は「農の新時代」をテーマに、化学術展や模擬店・即売店、ステージ企画が催され、入場者数は9万5581人と多くの方が来場した。天候にも恵まれ賑わいと活気溢れる3日間となった。感染対策を講じながら学生の手作りによる収穫祭

大盛況の即売会場(世田谷)



は、まさに「実学主義」を体現し、地域の方にも愛される新たな時代の収穫祭となった。

第24回
厚木
キャンパス

11月4日～5日にかけて第24回厚木キャンパス収穫祭「豊かな実り始まる宴」が開催された。

厚木キャンパス収穫祭ならではのサツマイモ掘り体験や牛の展示といった体験企画のほか、工夫を凝らした展示や模擬店、そして4学科の学生が制作した神輿の練り歩きなど、学生はもとより老若男女問わず楽しめる魅力満載の2日間となった。2日を通じ、2万2068人の方が来

豊かか実り
始まる宴

場し、厚木キャンパス全体が学生と来場者の笑顔に溢れ、熱気と活気に包まれた。



YOSAKOIの演舞(オホーツク)

神輿(厚木)

第35回
北海道
オホーツク
キャンパス

開花

第35回オホーツク収穫祭が10月8日～9日に開催された。今年度の統一テーマは、「開花」。このテーマには、コロナによる制限が解除され、多くの可能性を秘めている現状において、個々の才能を開花させ、新たなかたちでの収穫祭をつくっていく

こうという思いが込められている。豚の丸焼きや鮭鍋無料配布などオホーツク収穫祭特有の企画とあわせ、近隣の団体と連携のもと、農大マルシェも同時開催し、オホーツクを存分に堪能できる地域と密着した収穫祭となった。

【榎本 弾】



熱戦を繰り広げた綱引き

体育祭 心一つに

収穫祭最終日の11月6日、体育祭が世田谷キャンパスグラウンドで開催された。学科対抗戦で、玉入れ、リレー、綱引き等で競い合った。本年度優勝したのは造園科学科。

中でも圧巻だったのは応援合戦。衣装を揃え日々練習を重ねた各学科の演舞に大きな拍手と歓声が起こっていた。全競技の最後には、応援団と相撲部が音頭を取り、全学生で青山ほりを踊り、皆の健闘をたたえた。東京農大スピリットを垣間見れた瞬間だった。

【住友 富美】

ホームカミングデー 4年ぶり/開催



盛り上がりを見せた特別講演



記念講演中の前橋健二教授



ミニ収穫祭を楽しむ三代表彰者

「農大らしさ」の継承を第一部の式典では、親子三代表彰17組が盛大に表彰され母校と親子の絆をさらに深めた。

三代表彰17組

東京農大の研究力「総合農学」を発信し約300名が聴講。

屋外の即売会「ミニ収穫祭」には、卒業生が営む農家や店舗、関連団体など25団体が集結。当日は、キャンパス内では硬式野球部やサッカー部の公式戦、ランドスケープデザイン・情報学研究室のワークショップなど、生活動も盛んに行われ、卒業生だけでなく近隣地域の方々も多く来校し、

「食」と「農」に集う農大ファンたちはホームカミングデーを五感で楽しみ賑わった。

【寺合 広介】

第5弾



タマゴタケ

卵茸、学名: Amanita caesareoides

卵から生まれる真っ赤なキノコ?



まるで卵から割れ出るように生えてくるキノコ。その名も「タマゴタケ」。江口学長の愛するキノコでもある。日本全土に生息し夏から秋にかけて広葉樹林や針葉樹林に発生する。写真は今年の10月に北海道オホーツクキャンパスの裏山で撮影したもの。見た目は毒キノコと間違われがちだが、いろいろな料理にあって食べられる美味しいキノコである。学長はリゾットやフリッターにして食すと美味とのこと。ぜひお試しを。【文・寺田守一、写真・磯沼 玲】

令和5年度 農大貢献賞・ベストティーチャー賞 ベストレクチャー賞決定

9月19日、世田谷キャンパス 横井講堂で令和5年度「農大貢献賞」及び「ベストティーチャー賞」の授賞式が行われた。農大の教育研究において、広く活躍し、本学の名声を著しく高めることに貢献した教職員に贈られる「ベストティーチャー賞」。



江口学長(中央右)と大場教育後援会長(中央左)と受賞者

「農大貢献賞」受賞者		
地域環境科学部 森林総合科学科	山崎 晃司 教授	前列 左から2人目
「ベストティーチャー賞」受賞者		
農学部 動物科学科	黒澤 亮 助教	後列 左から3人目
応用生物科学部 農芸化学科	須恵 雅之 教授	後列 左から5人目
生命科学部 バイオサイエンス学科	太治 輝昭 教授	後列 左から4人目
地域環境科学部 地域創成科学科	茂木 もも子 助教	前列 左から6人目
国際食料情報学部 食料環境経済学科	野口 敬夫 准教授	後列 左から1人目
生物産業学部 海洋水産学科	高橋 潤 教授	後列 左から2人目
教職・学術情報課程 教職課程	緩利 真奈美 助教	前列 左から1人目
「ベストレクチャー賞」受賞者		
農学部 生物資源開発学科	三井 裕樹 教授	前列 左から5人目
農学部 生物資源開発学科	菊地 デイル 万次郎 助教	当日欠席

「ベストレクチャー賞」は、学生の満足度が高く、工夫を凝らした授業を展開し、本学の教育の質向上に貢献した教員に贈られる。各受賞者は表の通り。

【住友富美】

農大貢献賞 山崎晃司教授に聞く

我が国におけるクマ研究の第一人者 野生動物の研究で国内外で広く活躍



7年目を迎える「農大貢献賞」。今年、山崎晃司教授が受賞。本稿ではその受賞者挨拶をお届けします。



特別講演の映像はこちら

この度は思いがけず栄えある賞をいただきましたこと、心から御礼を申し上げます。受賞理由は、クマをはじめとする野生動物についての研究成果を広く発信したこととあります。クマのような大型哺乳類の研究をただ一人で遂行することは難しいものです。私はこれまでに数百頭のクマを許可を受けて生け捕り捕獲して、各種試料の採材、生態・生理計測機材の装着などを行ってきました。しかし、そのような機会に

クマ研究 次世代に繋ぐ

得た膨大なデータを一人で抱え込んでしまえば、時宜を得て十二分に活かすことは不可能です。何より、それでは大きな負担をかけたクマに面目が立ちません。そのため、研究はたくさんの方の共同研究者と共に進めています。今回の受賞は、たくさんの方の共同研究者を代表して、私が受けたものと捉えています。共同研究者の皆さんにも深く感謝を申し上げます。私がクマ研究に取り組んできた理由のひとつは、森の生態系の頂点に立つクマの生きざまに迫ってみたいことです。山中で出会う、漆黒の輝く毛並みを持つクマの姿は、本当に美しく見飽きることはありません。一方で、この秋の報道で皆さんご存知のように、人と大きな軋轢を起す動物でもあり、そのクマの管理や保護に資する科学的データを蓄積したいという思いが研究のもうひとつの動機です。近年のクマと人との軋轢増加の背景には、人による森林の利用の減少とその結果の広葉樹二次林の再生、中山間地域での過疎と高齢化の急速な進行によるクマへの圧力の低下があります。これらは、生態学的なアプローチだけでは解決できない部分です。もう私には十分な時間がありませんが、社会科学分野の専門家と協働して、さらに大きな視点でのクマ研究を次の世代が実現してくれたらと願っています。

第3回創作メニューコンテスト

厚木キャンパスで新メニュー選考・販売

今年で3回目となる「創作メニューコンテスト」の試食会が、9月15日に厚木キャンパスで行われた。今回のメニューテーマ



BunBun 農大店で販売 『農大根バーガー』



生協レストランけやきで販売 『彩り豊かな鶏肉ガバオ風丼』

は、農大生協レストラン「けやき」では「野菜も！タけやきでも！一緒に摂れる丼」、BunBun農大店では「これぞ！農大バーガー」農大らしさあふれる調理パン。どちらも食欲をそえられるテーマ

アイデア詰まった多くの応募のなか、選ばれたのは、井部門ではちよっぴりスパイシーでタンパク質がたっぷり摂れる『彩り豊かな鶏肉ガバオ風丼』、バーガー部門は、だしで煮た大根にミートソースとタルタルソースの組み合わせが絶妙で美味しい『農大根バーガー』。どちらも9月28日より期間限定で販売している。

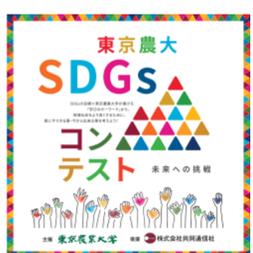


お披露目された新学科旗の下で記念撮影

四半世紀を振り返り、発展に新たな決意

9月30日、「アグリビジネス学科 設立25周年記念イベント」が国際センターで開催された。イベントでは江口理事長兼学

長が祝辞を述べたほか、創設時から学科の発展に尽力された門閥敏幸名誉教授が記念講演に登壇した。25年間に輩出した多くのOB・OGの方々と想い出を共有しつつ、アグリビジネス分野の発展に向けて決意を新たにしている。節目の機会となった。【鈴木源太郎(アグリビジネス学科教授)】



12月に予定されている最終審査では、プレゼンテーションを実施。最優秀賞1作品、優秀賞2作品、特別賞2作品が選定される。

第2回SDGsコンテスト応募作品出揃う 東京農大SDGsコンテスト 未来への挑戦は、SDGsの目標×東京農大が掲げる「学びのキーワード」から、地域社会をより良くするために、今できること・今からできることを考え、取り組んでいることを、広く全国の高校生に募集した。今回、届いた応募作品は、200件以上。

東京農大薬物防止についての取組み 薬物乱用の有害性・危険性・反社会性は明らかであり、大学をあげて再発防止に向けて全力で取り組んで参ります。 9/12・9/15 薬物防止セミナー(農友会体連向け)開催 10/9 学生ポータル 注意喚起を掲載 デジタルサイネージで喚起の動画掲出



トークセッション

11月13日、国際センターで、ANAあきんど株式会社庄内支店とともに地域創成をテーマにした東京農業大学産学官・地域連携HUBシンポジウムを開催した。第一部では、ANAあきんど庄内支店の前田支店長から航空業界や地域創成の概要説明と庄内地域の魅力を発信して、ANA SHONAI BLUE Ambassadorの客室乗務員4名が各自が携わっている活動の取り組みの事例を発表した。第二部では、上岡副学長が「東京農大ブランド構想の意義

【磯沼玲】

News Topics ニュース&トピックス

農友会活動

陸上競技部 長距離ブロック男子

陸上競技部 長距離ブロック男子は、11月5日の「第55回全日本大学駅伝」に14年ぶりに出場し、総合13位となった。2024年1月2~3日には「第100回箱根駅伝」に、10年ぶり70回目の出場を果たす。飛躍し続けている同部の監督を務める小指 徹氏が各大会について語った。

第55回全日本大学駅伝対校選手権大会

14年ぶり伊勢路

1区圓谷(経済2年) 4区並木(開発4年)は10位で襷を繋ぐ2区 前田(経済1年)写真 5位シード圏が6人抜きの間3位(区間新) 粘り強く 内を維持できの快走を見せ4 襷繋ぐ たことは箱根に浮上。3区 駅伝や来年の原田(化学2年)は他校 チーム戦力を考えると大のエースに引けを取らな きな収穫となった。5区以降、後半区間は他校に



比べ力不足で13位という結果となったが粘り強く襷を繋いでくれたと感じている。

第100回 東京箱根間往復大学駅伝競走

いざ！箱根路

全日本大学駅伝を控え、現在チームは一丸となり、箱根駅伝に向けて日々練習に励んでいる。全日本大学駅伝メンバー以外は記録会に出場し、多数が自己ベストを更新。チーム力も向上し選手層に厚みが増してきた。12月上旬に16名のエントリー、最終的に10名が本選を走ることができる。チーム



箱根駅伝情報
日時
2024年1月2~3日
往路2日
8時00分スタート
大手町 読売新聞社前
13時30分ゴール
箱根町 芦ノ湖駐車場入口
復路3日
8時00分スタート
箱根町 芦ノ湖駐車場入口
13時30分ゴール
大手町 読売新聞社前
コース
往路5区間 (107.5Km)
復路5区間 (109.6Km)
合計10区間 (217.1Km)
出場校数:23校
駒澤大/中央大/青山学院大/國學院大/順天堂大/早稲田大/法政大/創価大/城西大/東洋大/大東文化大/明治大/帝京大/日本体育大/日本大/立教大/神奈川大/国士館大/中央学院大/駿海大/東京農業大/駿河台大/山梨学院大
シード権取得
10位までにいった大学

全学応援団「青山ほどり」全国に響く

全学応援団の熱いエールが続いている。箱根駅伝予選会のスタートとゴール地点では、団員が厚木キャンパスで自ら栽培した大根を持ち「青山ほどり」を披露、選手を鼓舞した。箱根駅伝本選でも、元日に収穫する大根を持ち、応援する予定だ。

東京農大の勝利、発展の為、日々活動している全学応援団。今期団の中心にいた加藤俊弥団長は

今回の箱根駅伝のチーム目標は「シード権獲得」である。その目標達成に向けてやるべきことは体調管理を徹底し、ベストメンバーをエントリーすること。そしてベストオーダーを組むことである。

小山選手がパリ五輪内定！

Honda所属の小山直城選手が10月15日の「マラソングランドチャampionシップ(MGC)」で優勝。パリ五輪マラソン日本代表に内定した。小山選手は東京農大を平成30年度に卒業。在学時は醸造科学科酒類生産科学研究室に所属し研究に努め、文武両道の学生生活を送っていたという。農友会 陸上競



北海道地区代表決定戦「優勝」第54回明治神宮野球大会「出場」



北海道オホーツク硬式野球部は、第15回明治神宮野球大会北海道地区代表を勝ち抜いた11大学が

4年間の集大成として好投した石澤大和投手の北海道学園大学を相手に連勝で優勝し、第54回明治神宮野球大会に3年連続5回目の出場を果たした。明治神宮野球大会とは秋季リーグ戦および各地区大会を勝ち抜いた11大学が

ドラフト 硬式野球部 世田谷



10月27日の一般社団法人日本野球機構(NPB)主催の2023年フットボールドラフト会議で、硬式野球部の宮里優吾投手(ミヤサト ユウワ・ビジネス4年)が、

陸上競技部 長距離ブロック女子

「杜の都駅伝」11位

「富士山女子駅伝」出場権獲得

10月29日に「杜の都」仙台で行われた第41回全日本大学女子駅伝対校選手権大会に、2年連続29回目の出場を果たし、5位以内のシード権獲得を目指しチーム一丸となつて襷を繋いだ。今年の



弘進ゴムアスリートパーク仙台で笑顔の記念撮影

夏は猛暑の中、高地での強化合宿を4回行い足腰を強化し大会に備えた。レースは1区の河野花坂口愛和(健康4年)が区間9位までの快走でシード権争いまで10秒と迫る総合9位まで順位を

北海道オホーツク硬式野球部

出場し、トーナメント方式で秋の大学日本一を決める大会である。初戦は11月16日に中国・四国三連盟代表の環太平洋大学と対戦し、試合序盤から流れを掴むことができず、1-8で初戦敗退となった。

投手陣ではエース石澤大和(自然4年)の好投で中盤流れを作ったが、攻撃陣が4回江川輝琉(自然3年)の3塁打からの1得点に抑えられた。江川は3安打と打線を牽引したが後続が続かなかった。

【嶋田達郎】

【住友富美】

【監督 長田千治】